

三陸の海を放射能から守る

岩手の会

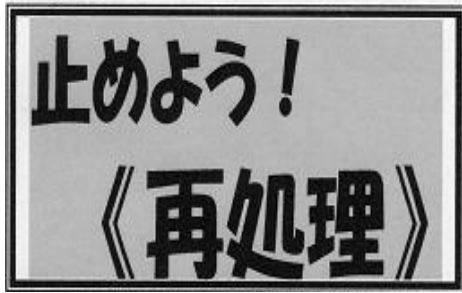
郵便振替 02240-5-102650

《再処理 / 岩手の環境》

http://homepage3.nifty.com/gatayann/env.htm

《まった再処理分庫》

http://briefcase.yahoo.co.jp/k_imag



《天恵の海》

2010(平成22)年

2月 27日

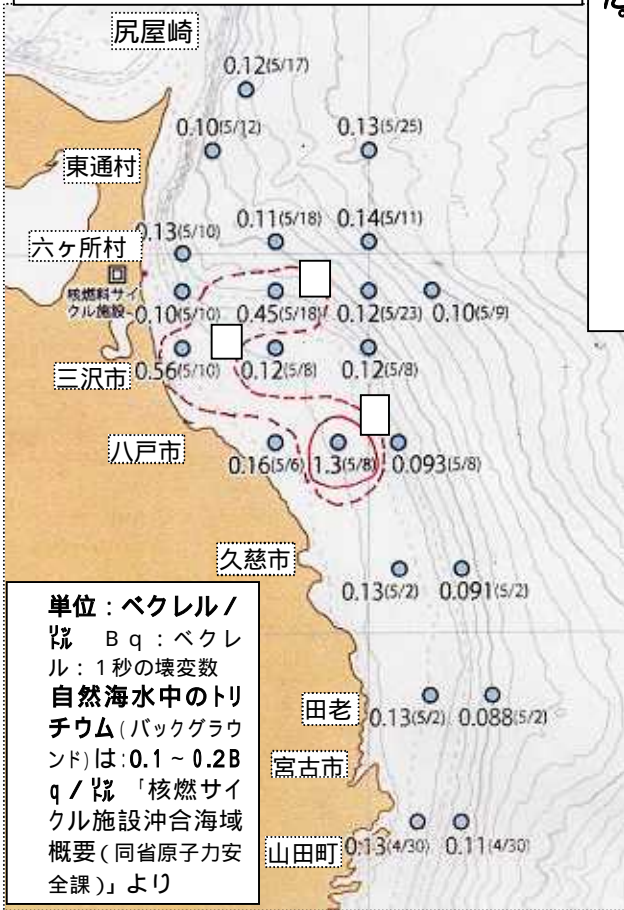
第82号

編集事務局 S.Oshida

TEL・FAX 019-623-1636

海水中のトリチウム 自然の6倍も! 検出

海水試料(表層水)トリチウム濃度
2008(平成20)年度春(4~5月)
文科省調査 図1



文科省・海洋放射能調査

昨年十月三〇日に開催された文部科学省主管の海洋環境放射能評価事業検討委員会に「核燃料サイクル沖合海域トリチウム濃度測定結果」が報告されました。平成一九年度(春・秋)と二〇年度(春・秋)の四回分で、尻屋崎沖から岩手県山田町までの二二地点の表層水の採集日とその測定結果が載っています。この時期は実際の使用済み燃料を用いたアクティブ試験中で、私達の抗議にもかかわらず大量のトリチウムを含む放射性廃液が流されています。二〇年五月には八戸沖で自然海水の六倍ものトリチウム濃度が測定されました。

二二カ所の観測地点
文部科学省主管の「海洋環境放射線総合評価事業」では、一九九四(平成六)年度から「核燃料サイクル施設沖合調査」が始められ、青森県沖合一六地点でトリチウムやストロンチウム⁹⁰等の測定を行ってきました。二〇〇五(平成一七)年度からは私達が要望した結果、岩手県沖合の六地点¹が加えられました。その二二地点の測定日と数値²が一九、二〇年度報告としてホームページ上に掲載されました。(図一)

アクティブ試験でのトリチウムの放出
その報告書の数値で、トリチウムが自然海水(バックグラウンド)の上限0.2ベクレル/ℓを超えているものを見てゆくと次のようになります。

平成一九年春
三沢沖0.21 八戸沿岸0.34 久慈沖0.32 0.46 田老沖0.23 0.21 山田沖0.29 0.23
平成一九年秋
六ヶ所沖0.43、三沢沖0.24 0.21
平成二〇年春
六ヶ所沖0.45 三沢沖0.56 八戸沖1.3、

平成二〇年秋
0.2を超える地点なし
平成二〇年春、自然海水の六倍以上の測定値以上のように、平成二〇年五月に八戸市沖約二五キロに1.3ベクレル/ℓという自然海水(バックグラウンド)の六倍以上の数値が観測されました。(表1) この時期は、表2のように同年二月~五月までの放出回数³が二四回、廃液量が一万二七〇〇立方メートルに達し、トリチウム放射能総量は一五八兆ベクレルに達しました。廃液も原発放出濃度限度の百倍を超える日が一日もありません。四月二八

平成20年5月高濃度トリチウム観測地点 表1

採取地点	5月	Bq/ℓ	自然海水の何倍か
八戸市沖	8日	1.30	6.5
三沢市沿岸	10日	0.56	2.8
六ヶ所村沖	18日	0.45	2.3

(バックグラウンド値0.2 Bq/ℓで計算)

(注) 文部科学省ホームページ 環境放射能評価検討委員会・資料7-2「平成20年度海洋環境放射能総合評価事業成果報告書」から

平成20年2～5月の海洋への放出量 表2

2008年	回数	廃液量 m3	トリチウム Bq	廃液の濃度が原発放出濃度限度の100倍を超えた日
2月	5	2,836	70兆	1日・743倍、6日・799倍、20日・281倍、22日174倍
3月	3	1,749	5兆	
4月	9	5,197	63兆	23日・273倍、24日・371倍、28日・522倍、30日・401倍
5月	7	2,925	20兆	2日・342倍、10日・116倍、21日・113倍
	24	12,707	158兆	*原発放出濃度限度は 6万Bq/リットル

日は五二二倍、同三〇日四〇一倍、五月二日は、三四二倍を示し、とても濃い放射能を含む海水のかたまりが青森県と岩手の沿岸に到達した可能性があります。表1に0.2ベクレル/リットルを超える海域を破線で示

アクティブ試験日程・処理経過表 表3

工程	開始	終了	処理使用済み燃料	
			体数	ウラン換算(ト)
第1ステップ	2006.3.31	2006.6.26	67	31
第2ステップ	2006.8.12	2006.12.6	166	60
第3ステップ	2007.1.29	2007.4.26	319	70
第4ステップ	2007.8.31	2008.2.13	550	160
第5ステップ	2008.2.14	08年10月剪断終了	600	104
ガラス固化溶融炉不調で休止状態			1702	425

しました。かなり広大な海域が自然海水の二、六倍の濃度のトリチウムに汚染されていたことが分かります。本格稼働すれば連日放射能を含む海水が押し寄せる再処理工場でアクティブ試験開始以来処理

された使用済み核燃料は、一年半で一七〇二ト、ウラン換算で四二五トほどでした。(表3) 本格稼働をすれば、毎年ウラン換算で約八〇〇トが処理され続けます。トリチウムの半減期は二年。この測定結果から、本格稼働が強行されれば自然界の何倍もの放射線を出す海水が下北や三陸沿岸に押し寄せ、それは容易に想像されます。再処理工場はこのまま稼働停止を！



再処理ストップ みんなで大きな声に！

全国署名は九万五九四筆集まり、去る一月二〇日政府に提出しました。署名用紙に記載されていた取り扱い団体は次の八九団体でした。その他多くの団体や個人からも沢山寄せられました。みんなの力で大きな声としてゆくとためにがんばりましょう。

北海道 ストップザもんじゅ 小樽、同札幌、北教組余市東分会、同後志支部余市支会東中分会、サツポワカシヨ
東北 核燃サイクル問題小委員会(青森市)、PEACE LAND(八戸)、青森若葉の会、花と小川の里いわて生協、生活クラブ生協岩手、三陸の海を放射能から守る岩手の会、核燃料小委員会水沢教会、豊かな三陸の海を守る会、平和環境岩手県労組センター、岩手高教組、岩手県教組、岩手大学教組、日本科学者会議岩手支部、日本科学者会議岩手支部、館が森アーク牧場(株)岩手、放射能から気仙の浜辺を守る鱈の会、陸前高田市地域女性団体協議会、岩手有機農業研究会、麗ら舎読書会、こどもたちの教育と未来を考える会、(株)パニアユギア海産天然工芸専門店えびやさん、NPO地球とともに、三陸の海を守る気仙沼・

本吉の会、生活クラブふくしま生協、三陸 宮城の海を放射能から守る仙台の会(わかめの会)、関東 千葉生活クラブ生協、多摩北生活クラブ生協、多摩南生活クラブ生協、生活クラブ生協埼玉、生活クラブ生協相模原センター、二三区南生活クラブ生協、生活クラブ生協茨城、さいたま生活クラブ生協、生活クラブ生協東京、北東京生活クラブ生協、かわさき生活クラブ生協、生活クラブ生協神奈川湘南、さがみ生活クラブ生協、東京都生協、ユタウ支部、横浜北生活クラブ反核ヒロシマ実行委員会、サーフライダー、アウンデーション、ジャパノ東京、(財)日本キリスト教婦人矯風会(横浜)、同矯風会(逗子市)、日本キリスト教団神奈川教区核問題小委員会、空と海の放射能汚染を心配する市民の会(東京)、ふえみん婦人民主クラブ(東京)、ハチドリ(会)(茨城)、止めよう原発(東久留米市)、green v h東京、パルシステム東京、共同購入の会グリーンピート(西東京市)、原発を考える品川の女たち、たんぼぼ舎(東京)、大地を守る会(東京)、福島

老朽原発を考える会(東京)、中部 長野 脱原発学習会近畿 生活クラブ生協京都エルクノブ、未来をつむぐ母の会(京都)、ストップザもんじゅ事務局(大阪)、ストップザもんじゅ(京都)、KANSAI 光と水プロジェクト、播磨灘を守る会(兵庫)、枚方食品公害と健康を考える会、大阪大学付属病院看護士労働組合、中国 (財)日本キリスト教婦人矯風会(広島県福山市)、ブルトウムアクシヨン・ヒロシマ原発イラン！山口ネットワーク、山口県平和運動フォーラム、四国 (財)日本キリスト教婦人矯風会(愛媛県)、原発さよならえひめネットワーク、九州 (財)日本キリスト教婦人矯風会(長崎県)、同宮崎支部、ストップザもんじゅ(福岡)、同北九州、脱原発大分ネットワーク、その他 (財)日本キリスト教婦人矯風会(平和部)、大地に麦を実らす会、エトルクワセ(さいたま市)、花巻市、六ヶ所から地球を考える会、ストップ六ヶ所意見広告の会、安全なたべものを食べて食べよう